

ストーリー紹介ページ

忍者キャンプ 参幕

～雲の谷の物語～

2015 spring



見上げた空の
雲は流れる
守りつづける
友との約束

※この物語はフィクションです

【プロローグ】

舞台は「雲の国」、忍者の隠れ里「風渡（かぜわたり）の里」。
時は前回の「忍者キャンプ式幕」の終了時より、少しさかのぼる。

「日向（ひゅうが）の里」と同様「記憶喪失の術」がかけられていた風渡は、日向の里より早く「記憶喪失の術」を解いていた。術の解けた風渡では、10年前に「間久間（まくま）衆」によってさらわれた村の娘「八雲ひかり」を助け出すために戦いの準備を始めるが、元々のんびりとした性格の人が多く、なかなか上手くいかない。

頭を悩ませる風渡の里、忍頭「空野 雲海（そらの うんかい）」

『ええい！ と・に・か・く！ “量”じゃ！！ 忍者見習いを増やすんじゃ！』
『里の子どもや、里の外に行ってしまった者の子どもを呼び戻せ！』

今まで「平和すぎた」雲の国で巻き起こる様々な難題。
そして、次第に明らかになる「秘められた想い」…

君は「忍者見習い」。
雲の谷の平和を守るべく、立ち上がれ！



【壱】

忍頭（しのびがしら）の雲海さんは今日も荒れていた。
理由は、新しく忍者学校に生徒が来る初日だというのに、担任の「赤錆（あかさび）先生」が来てなかったからである。
『入学式に生徒より遅く来る先生なんてあり得ない！』

遅れてやってきた赤錆先生だったが、どうにも雲海さんと話がかみ合わずノンビリとした様子…
しかも、赤錆先生は大事な入学式の日だと言うのに、
「村の人との寄り合いがある」と言っていなくなってしまった。

残された雲海さんと生徒たち…

スタートからなんだか雲行きのあやしい風渡忍者学校入学式。

この学校… 本当に大丈夫！？



【 弐 】

雲海さんの指導を受けて1日の修行が終わった生徒たちは、
修行の成果の報告会をしていた。

生徒たちは修行の成果とともに
村の人たちからそれぞれ「ウワサ話」も聞いてきた模様。

〈ウワサのまとめ〉

- ・村のおまわりさん「この村は今まで平和すぎたから、ぜんっぜん武器とかないみたいだよ」
- ・村の陸上部のマネージャーさん「陸上部もなんだけど、この村お金がなくて貧乏なの。忍者学校も大変そうね」
- ・村の自称写真家「最近写真を撮っていると、たまに変な人影みたいのが写るんだよね～ なんだろうねえ」

ウワサ話を聞かされた雲海さんは気まずそうな様子。

『たしかに、この風渡はお金もなくて武器もないんだ…そうだな、それでは明日は修行とともにそれぞれの武器作りもしよう！』

『写真に影？ それはよく分からないなあ…写真家さんの手ブレじゃないのかな？』

翌日の修行も決まった所で、かなり疲れた様子の雲海さんは先に帰って行ってしまった。



【 参 】

雲海さんが去った後、腕組みをして考え事をしている様子の赤錆先生。

「みんな、写真の影って、ホント??」

赤錆先生の話によると、

赤錆先生には子どもの頃、とても仲の良かった「やっちゃん」と言う、お兄さんのような友だちがいて10年程前に突然いなくなってしまうらしい。

いなくなった時の置き手紙には「必ず迎えに来る。ピンチの時は助けにくる。」と書いてあったらしい。

さらに考え込む赤錆先生は生徒たちに、

翌日は、修行をしながら「怪しい人影」についても調査するようにお願いしたのであった。



【 四 】

2日目の夜。修行の報告会。

生徒たちからコソソリ「怪しい人影」の調査結果を聞こうとする赤錆先生だったが、どうやら雲海さんはお見通しだった様子。

戸惑う赤錆先生だったが、

『どっちにしても怪しいやつがいるってのはよくない事だから、まあいいよ』と言われ雲海さんと一緒に生徒たちの報告を聞くことになった。

生徒たちが調べてきた情報と似顔絵を見ているが、

「似てるような気がすんだけどなあ… なんせ最後に会ったのが10年前なので…」と赤錆先生も確信が持てない。

『もし近くにいるなら、じきに会えるさ。その時に話を聞こう』と

雲海さんに言われ、全員で翌日に向けて、風渡に伝わる忍者の儀式を行うこととなった。



【 五 】

儀式も終わり雲海さんから、これからの目標について話があった。

『我々の目的は、10年前に間久間（まくま）の忍にさらわれた、村の娘「八雲ヒカリ」を助け出すことだ！ そのためにも修行に精を出して力をつけてくれ。』

翌日の修行の確認を行おうとしたその時だった。

突然、爆音とともに周りの灯りが消え、何者かの気配が！

灯りがついた時、敵らしき忍の腕の中には赤錆先生が！

そして、喉元には、刀が！

雲海さんは叫ぶ『お主！何やつだ！』

「名乗るほどの名などない… 赤錆… 貴様は危険なヤツであるがゆえ、倒しにきた」

「おっと～ 雲海！ 動くなよ。」

敵に捕らわれている赤錆先生の前に成す術がない雲海さん。

こう着状態の中、赤錆先生は叫んだ。

「くそー！なんでだよ！やっちゃん！ピンチの時は助けに来てくれるって言ったじゃないかよ！ やだよ！あゝー！やっちゃんーん！」



【六】

その時だった

風の音とともに差し込む光…

「日向（ひゅうが） 忍者、安芸 百康（あき ももやす）、見参！！」

闇の中、敵に向かって一直線に走る影

戦闘に雲海さんも加わり、激しい戦いに！

一気に形勢が逆転した

大勢の忍者を前にして敵はその場を逃げていくしかなかった。



【七】

敵が去った後、たたずむ赤錆先生。

「や、や、やっちゃんなの？ 本当にやっちゃん？」

「ひなた… 待たせてすまなかった…」

感動の再会に生徒たちからも拍手が。

...

『おほん！』雲海さんだ。

雲海さんには急いで確認したいことがあったようだ。

話によると、やっちゃんの正体は、日向忍者学校教頭の息子「陣風のコウ」こと安芸 百康で、日向の里でも「記憶喪失の術」が解けたらしい。

それを聞いて考え込む雲海さん。

『昔の戦力を比べると、日向の里は風渡よりずっと強かった。しかも日向は「忍者の血をひく子どもたち」を集めていると聞く。すると… 間久間に狙われるのは、我らが風渡より日向が先か？ そして… 日向を再び「記憶喪失の術」をかけるために「八雲ヒカリ」を連れて現れるハズ。』

『陣風のコウ！ 私は今すぐ手紙を書く。すぐに日向の里にお父上、百八殿に届けてもらえるか！』

「はっ！」

手紙を受け取ると陣風のコウは走り去っていった。

走り去る陣風のコウを見送る赤錆先生に雲海さんが声をかける。

『良かったな、赤錆先生… いや、元百乃次一派、備中 日向（びっちゅう ひなた）君。』



【八】

翌朝、赤錆先生は一晩のうちに考え出した作戦を生徒たちに説明していた。

どうやら、今の戦力では間久間とまともに戦えない。

そこで、日向忍術の「結界術」を使って、里に結界を張ってしまおうという作戦だ。

そのためには里中に結界札を貼らなければならない。

生徒たちは手わけをして結界札を貼りに走る！

そして、結界忍術をかけようとしたその時、
すでに侵入している敵の忍者を発見！おそらく昨日の敵だ！

敵と雲海さんたちが対峙… 緊張が走る！



すると、空気の読めない村のおまわりさんが突然叫ぶ。

「不審者発見！ 警察官になって25年！初めて不審者を発見！」

「雲海殿！ 私におまかせください！ これは警察官の仕事であります！ 待て——！」

あっけにとられる一同…

『あ、このチャンスに結界、張っちゃえば？』



【九】

敵はおまわりさんが追っ払い、無事、結界も張れた。

一晩で日向まで行き、急いで戻ってきた陣風のコウの情報によれば、
日向の里で「八雲ヒカリ」は無事保護されたいらしい。



すべての問題も無事解決して、忍者学校の生徒たちが家路につこうとした時…

おまわりさんが首をかしげながら、一枚の紙切れを持ってきた。

「雲海さん、不思議な物を拾ったんですが…」

『ん？なんて書いてあるの？ 破れて読めない所があるじゃん』

= 風渡の祖先のみなさん =

本当の敵は■■■

私たちの時代は■■■■

■うか争わないでくださ■

百年後の民よ■

『は？ これって… どーゆうこと？』

忍者キャンプ参幕 ~雲の谷の物語~ 完結

「忍者キャンプ四幕 ~未来からの手紙~」へ、つづく…

